

庄内町立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針（案）
に関する意見募集の結果について

令和6年2月19日

庄内町教育委員会

- 1 意見募集期間 令和5年12月15日（金）から令和6年1月15日（月）まで
- 2 意見提出人数 10人
- 3 意見提出件数 16件
- 4 提出意見と意見に対する教育委員会の考え方

番号	提出された意見	回答
1	小学校について「場合によっては、単学級もあり得る」は、場合によるの内容が定かではありませんが、単学級になるのは立川小か第四小が独立して残る場合と思われます。審議会のアンケートで両学区の多数意見であった「クラス同士切磋琢磨できるから」「多様な活動ができるから」「段階的な統合は効率的でないから」「将来的に中学校で一緒になるから」「子どもの教育環境の差がなくなるから」からするとあり得ない基本方針だと思います。小学校も複数学級を基本とするでよいのではないのでしょうか。	原則、複数学級が望ましいとは考えていますが、統合する小学校の組み合わせなどによっては、単学級もあり得ると考えています。
2	一校に統合しない理由として最も多かった「学校までの距離や通学時間の面から」の対応として、立谷沢地域などには通学快速のような直行便のバスを運行することで今より通学時間が短縮できるのではないのでしょうか。	審議会においても同様の意見が出ていますので、スクールバス等の運行については、工夫しながら、なるべく通学時間が短縮できるよう検討していきます。
3	中学校については理解しますが、20年～30年後見据えるのであれば、小中一貫校も視野に入れて検討すべきではないのでしょうか。小中一貫校のメリットや財源の見通しについてはここでは記載できませんが、先を見据えるのであれば価値ある検討ではないのでしょうか。今後8年くらいは使い続ける余目中学校の改修は必要と思いますが、小中一貫校の可能性があるのであれば最小限の修繕で済ませることもありえるのではないのでしょうか。	審議会の中では、小中一貫校、義務教育学校について話が出てきました。その中では、庄内町全体の規模では、大きすぎて学校運営が難しいのではないかとということ、また、立川小と四小が一緒になっての義務教育学校、小中一貫校の意見がでしたが、先細りが考えられクラス替えができないことから、この組み合わせは難しいとなった経過があ

		ります。今後、学校整備を具体的に 進めていく中で、どのような小中連 携ができるか検討していきます。
4	方針期間には、今後 20～30 年後を見据えるとあ るが、それは 20～30 年後に理想的な教育環境を整 えるであって、それまでは移行期間ということな のでしょうか。私は、20～30 年後のニーズに応え られる理想的な教育環境を今から整えるだと思っ ています。枝葉の課題に捕らわれると理想的な教 育環境という幹の対応を見誤るのではないかと感 じてしまいます。	基本方針期間の考え方につい ては、20 年～30 年後の将来の姿だけ に重点を置くのではなく、現在、教 育を受けている子どもたちにも目 を向けて進めていかななくてはいけ ないと考えています。
5	新しく建設予定の小学校は、「余目一小、余目二 小、余目三小」だけを視野に入れるのではなく、余 目四小、立川小、更に年々減少する中学生徒数及 び学童施設も視野に入れてほしいと思います。 例として、【小中学校一貫校・学童施設も併設した 施設】を庄内町の間地点となる「余目第四小学 区」辺りへの建設も視野に入れてほしいと思いま した。	基本方針案にもありますが、新し く建設する予定の小学校の校舎に ついては、将来的に 1 校となる可能 性も考慮し、町内全域から負担なく 通える場所に整備する配慮の視点 をもって検討していきます。また、 基本方針案の中では、学童施設につ いては触れていませんが、今後の小 学校整備に伴い、関係課と連携を取 りながら、調整を進めていきます。 小中一貫校についての考え方は番 号 3 の回答をご参照ください。
6	中学校を「余目中学校」リフォームで決定した のならば、小学校は「立川中学校を（4.5.6 年校 舎）、立川小学校を（1.2.3 年校舎） としてリフォームして「小学校の拠点は立川」に する。	統合する小学校の位置につい ては、今後検討される内容になりま すので、ご意見として承ります。
7	令和 5 年 12 月の答申や検討資料を拝読し、私 は小学校についてはパターン 4 に賛成します。中 学校についても 1 校が望ましいと思います。パタ ーン 1 ～ 3 にした場合、今後の児童減少でパタ ーン 4 にせざるを得ない時が必ずくると察しま す。費用から見ても B グループ（※）の試算が一 番と思えます。令和 5 年 8 月 31 日の意見交換会 でも申し上げましたが、立川地域からの通学を考 慮した場合、現在の四小に新校舎を建設するの	基本方針案では、「10 年後程度を 目途に 2 校とするが、将来的に児童 数の減少が進んだ場合は、町内 1 校 とする。」としています。基本方針の 決定にあたっては、「小学校統合の 枠組みについては、学校として望ま れる適正規模はあるものの、児童の 発達段階から考えた学校までの距 離や通学時間の適正化、また各地域 社会を維持するうえでの観点など

	<p>が、通学時間等で一番適切と感じます。また、用地確保の件でも最安と存じます。</p> <p>児童や生徒は一人一人均等に差別なく教育を受ける権利があると思います。</p> <p>生みの苦しみは必ずありますが、苦しみが一回で終わることを切に希望します。</p> <p>(※) 第2回学校適正規模・適正配置審議会で提出された資料5-2を参照</p>	<p>を踏まえて決定する。」としていません。また、今後、児童数の推移や国の制度変更などにより必要に応じ教育委員会が、その都度基本方針を見直しながら進めていく方向で考えています。なお、小学校校舎の建設場所の考え方については、番号5の回答（前段）をご参照ください。</p>
8	<p>変えることの出来ない現実 — 中学校</p> <p>現在、立川中の生徒数は100人を切っている状態である。2年後には各学年は30人を割ることになる予想である。致道館中高一貫校に入る生徒を考えればこの数字はもう少し減ることになるだろう。</p> <p>一クラスに男子10数名、女子10数名になってしまうのである。もとより学校は学業の場だけではない。生徒同士の絆を深める場でもあれば、互いに刺激し合い切磋琢磨し合って自己研鑽を高める場でもある。皆で目的に向かって協力し合いながら、社会秩序を学んでいく場でもある。</p> <p>そう考えたときに、人数の少ないことが教育環境として果たして適切であろうか。</p> <p>現実として、生徒が少なくなれば自ずと先生の数も減る。そうなると学校経営に支障が出てくることは容易に想像できる。大規模校であれ小規模校であれ、基本的な先生方がこなさなければならない仕事は共通なのである。単純に比較は出来ないものの、分母が小さければそれだけ相対的に一人当たりの先生の仕事量は増えてくるのは当然だ。</p> <p>部活にしても出来る部は限られてくるし、体育の授業や、生徒会活動、運動会や文化祭などの学校行事にしても、生徒数が少ないことによる弊害が発生することだろう。</p> <p>小規模校なら一人ひとりの生徒に対し、先生の目が行き届くと言う意見もあるだろうが、私は教育環境を考えた時に弊害の方が多くなると思って</p>	<p>現在の各中学校の状況に関しては、地域意見交換会などでも意見があったところではありますが、基本方針案にもあるとおり、中学校は複数学級となるよう町内1校の方向で考えています。</p>

	<p>いる。</p> <p>以上のことから、私は中学校の統合は待ったなしの時期に来ていると思っている</p>	
9	<p>変えることの出来ない現実 — 小学校</p> <p>小学校の統合も近い将来に避けて通れないことであろう。ただ、町の財政状況を鑑みるに、中学校と小学校の統合にかかる財政負担は同時に行えるほどに余裕が無いのが現実である。</p> <p>とすれば中学校のほうが差し迫っているので、中学校の統合を優先すべきである。その後小学校の統合となれば、現実的に小学校の統合は十数年後のことになってしまう。</p> <p>このように考えると、今後の生徒数の減少を鑑みればやはり庄内町で1校に集約するのが望ましいことになるのではなかろうか。その場合は、多くの生徒が徒歩通学出来る様に、なるべく立川寄り余目の市街地内に新築するべきだろう。</p> <p>学校から遠い地区から通う生徒に関しては、スクールバスや少人数の集落からはタクシー等で対処するなど、知恵を絞るしかない。</p>	<p>小学校の統合については、番号7の回答、また、新しい小学校の建設場所については番号5の回答（前段）をご参照ください。</p>
10	<p>小学校と中学校の余目への統合化には反対です。</p> <p>1月4日にNHKで放送されたAIと専門家による未来予測にもありましたが都市への一極集中よりも地方分散の方がそこに暮らす人々の幸福度が向上するという予測がありました。日本全体もそうですが庄内町にも同様なことがいえると思います。やはり地域に子供や生徒がいて学ぶ学校があるからこそ地域との交流が生まれ地域の活性化が図られることにより、そこに住む住民の幸福度が向上すると思うからです。</p> <p>また学校は災害時の避難所としても大変重要です。能登半島地震でも避難する場所が少なくて避難者が大変苦勞されていましたが幸い観光地でもありホテルや旅館を借り上げていました。しかし庄内町にはそのような場所はごく僅かです。特に立川中学校は新耐震基準で建設され築年数も30</p>	<p>小学校、中学校については、児童生徒数の減少や校舎の老朽化の課題により統合が必要であると考えています。</p> <p>基本方針の策定については、現状と課題を見極め、子どもたちの成長にとってよりよい環境の視点に立ち進めていきたいと考えています。また、災害時の避難所等として立川中学校を有効活用すべきとのご意見については、今後の学校整備の実施計画の中で検討をしていきます。</p>

	<p>年未満ですので、まだまだ有効活用すべきだと思います。</p>	
1 1	<p>基本的に庄内町学校適正規模・適正配置審議会の答申「7 庄内町における小中学校の適正規模・適正配置のあり方」に賛成ですし、本答申を尊重すべきものと考えます。</p> <p>「統合新設の小学校はできれば自宅から徒歩通学できる場所に設置してほしい」というのが、町民のほとんどの想いだと思いますが、スクールバス通学地区が出るのもやむを得ないものと考えます。新設小学校の設置場所は、30分以内の徒歩で通学できる児童が最大数になる場所が適切だと思います。設置場所について十分御検討くださるようお願いいたします。</p>	<p>答申を重く受け止め基本方針案を策定していますが、パブリックコメントでのご意見などを参考に最終的にまとめていきます。また新しい小学校校舎の建設場所については、番号5の回答（前段）をご参照ください。</p>
1 2	<p>少子化で既存の学校維持は難しい面は理解しつつも、統合ありきで進んでいるように思われます。特に中学校の1校化については、地理的に細長い町において1時間以上もかかる通学が負担にならないかの心配もあり、途中でトイレ休憩を取ってまで通学することが適正か疑問に思います。立川地区においては、小学校が一つになり立谷沢地区からのスクールバス通学の状況で問題点がないのか集約しているとは思いますが参考としてみるのも必要なのではないでしょうか。統合はいつでも可能だと思いますし、その前に余目・立川2校を維持し、学習は現在の体制で体育祭や文化祭は合同で行う等の柔軟な対応を行い時間をかけて進めるのもよいのではないかと思います。また、現状の通学範囲を見直し、旧余目だから余目の学校ではなく立川地区に近いところもあり、学区の見直しをすることも一考だと思います。</p> <p>遊佐町では、中学校統合にあたり町内の中心に新設し一部に負担のかからないようにした事例もある。仮に一カ所となった場合の設置あたっては、既存を改修するよりは、建設場所やこれからのIT化等の情報化社会を、見据えて対応出来るような</p>	<p>立川地域の小学校の統合が平成21年に行われ、スクールバスの運行については、トイレ休憩を設けるなど対応してきた経過がありますが、現状問題なく運行されているものと捉えています。</p> <p>中学校の統合については、現在の立川中学校の生徒数の状況を鑑み、統合は喫緊の課題と捉えていますが、なお、今後の検討にあたりご意見として承ります。また、町内の中学校の学区については基本方針案では、町内1校としており、学区見直しは考えていないところです。</p> <p>中学校の校舎については、現余目中学校の施設の大きさ、統合した場合のスクールバスの必要台数、既存の社会教育施設の利用のしやすさ及び将来的な小学校建設などの財政面を考慮し、既存の余目中学校校舎を長寿命化改修する答申を受け、基本方針案とした経過があります。長寿命化改修する際は、新しい教育に対応する教育環境に配慮してい</p>

	<p>設備も完備したものを新設で設置するのが望ましいと思います。当事者の子供の意見も授業に設定し学習として取り組んでみても欲しいと思います。</p>	<p>きます。</p>
13	<p>未来を担う児童、生徒の育成は、地域の中でとても大切な存在で、みんなで見守りながら育てていくことが求められます。</p> <p>今回の基本方針（案）の中で、町内小学校は10年後程度を目安に2校とするが、将来的に児童数の減少が進んだ場合は町内1校とするとあります。今後、町の子育て施策等重きをおいた事業をしていったとしても令和11年以降も、児童、生徒数の減少は推測されるので、10年後を目途に町内1校とする。にした方がいいと考えます。</p> <p>学校が地域の中で非常に重要な役割を果たしているので、それらに配慮した施策の実施はさらに必要と思います。</p>	<p>番号7の回答をご参照ください。</p>
14	<p>基本方針案及び付随するアンケートを読ませて頂いた。アンケートについては当然のことながら現在の自分たちを中心に回答することから適正規模、適正配置の観点からずれることも考えられる。最終的にはアンケートも参考にしながら、教育委員会として全町的な立場からしっかりとしたビジョンを持った取り組みを行ってほしい。</p>	<p>基本方針の策定にあたり、まずは答申に含まれるアンケートなど町民の声を大切にしながら、教育委員会、町として全町的な立場に立ち、ビジョンを持って取り組んでいきます。</p>
15	<p>先日、国立研究所の2050年までの地域別人口推計が公表された。庄内町の基本方針案では小学校では6年後、中学校では12年後までの推計がなされているが、この推計と現在の予測をもとに15年後を考えると児童、生徒数は半減するものと考えられる。その先を考えた場合、小学校においても現在の1, 2, 3, 4、立川の枠を越えた学区の再編や町内1校も視野に置いた取り組みが必要になってくるのではないかと。もし、将来的に1校にするのであれば、新規に建設する小学校は現在の第四学区やそこに近い常万地区付近に建設することが望ましいのではないかと。どこかで決断</p>	<p>小学校の統合については、番号7の回答、新しい小学校校舎の建設場所については番号5の回答（前段）をご参照ください。</p> <p>中学校の校舎の整備については、中学校、小学校どちらの校舎も同時期に新築することは財政的に困難と考えられます。また、学校整備を速やかに進めるためには、中学校は統合して現余目中学校を長寿命化改修して利用していく方向で考えています。小学校の整備については、今後、検討していく内容になり</p>

	<p>し早めの統合も考えられるのではないか。</p> <p>もしくは、中学校を第四学区もしくは常万地区に新築、現余目中学校を1～3小のために改修。町内で一番新しい立川中学校を立小、4小の統合校として改築。その後、小学校も全町的な統合が必要になった段階で中学校の近くに新築してはどうか。</p> <p>いずれにしても、一部に負担が偏ることなく全町的な視点で臨んで頂きたい。庄内町の子どもたちが一人残らず生き生きと学習できる環境になるようにお願いします。</p>	<p>ますので、ご意見として承ります。</p>
<p>16</p>	<p>庄内町のこの先の人口減少、少子化、学校施設の老朽化、財政等考えた場合、小学校1校（パターン4新築）、中学校1校（余目中学校校舎を長寿命化改修し統合）が望ましいと思います。</p> <p>資料2の児童生徒数の推移から見てわかるように、2030年（令和12年）には、小学校全体で約600名、中学校全体で約400名、合計1000名と現在よりも約300～350名減少する見込みです。</p> <p>また、資料3（学級数アンケート）では、中学校、学年4学級以上（54.6%）と早く統合した方がよいとの結果です。</p> <p>令和5年9月実施のアンケートでは、小学校1校（パターン4）を望む結果が全体の中で一番（35%）高く、その理由として中学校で一緒になるから、クラス替えで切磋琢磨できる、多様性が身につく等でした。立川地域でも、75名中22名がパターン4を選択しております。</p> <p>通学距離や時間、学童問題、子供達にとって、負担が少ないのが理想ですが、安心安全な施設、充実した教育環境、地域に根ざした学校を目指し、全体で問題を解決して頂きますようお願いいたします。</p>	<p>小学校の統合については、番号7の回答をご参照ください。</p> <p>中学校の統合については、基本方針案のとおりです。</p>